

2023年6月11日（日）
オンライン開催

日本学術会議公開シンポジウム
「最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答」

日本列島の現生人類文化の出現、定着、変化

出穂 雅実

東京都立大学 人文社会学部 歴史学・考古学教室



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

現生人類の出現とユーラシア大陸への拡散

- 人類化石証拠, DNA証拠, 文化証拠, 古生態証拠, 古気候・景観証拠に基づく総合的研究。
- 現生人類は約20万年前にアフリカで出現。
- ユーラシアの最初期拡散は, 5~4万年前 (6万年前を遡るとの意見もある)。
- ユーラシアの上部旧石器時代は, 現生人類の出現から, いわゆる新石器革命と農耕の発生 (≒1.2万年前) までを指す。
- 4~3万年前以降にユーラシア各地で社会の地域化・多様化が特に進んだ。



Kaifu, Izuhu, Goebel (2015)
Texas A&M University Press

日本列島の上部旧石器時代研究の枠組みと意義

- 石器文化・技術編年（文化史年表）の構築がほぼ完了。
- 全球的な気候変動と、それに伴う列島周辺の生態系変化に対する現生人類の適応プロセスとメカニズムの解明へ、研究の枠組みが変化。
- 日本列島に固有の地域性と、他地域と共通性する特徴の両方を明確化する。
- 現生人類の全球拡散史における意義を明らかにして世界の研究と共有する。

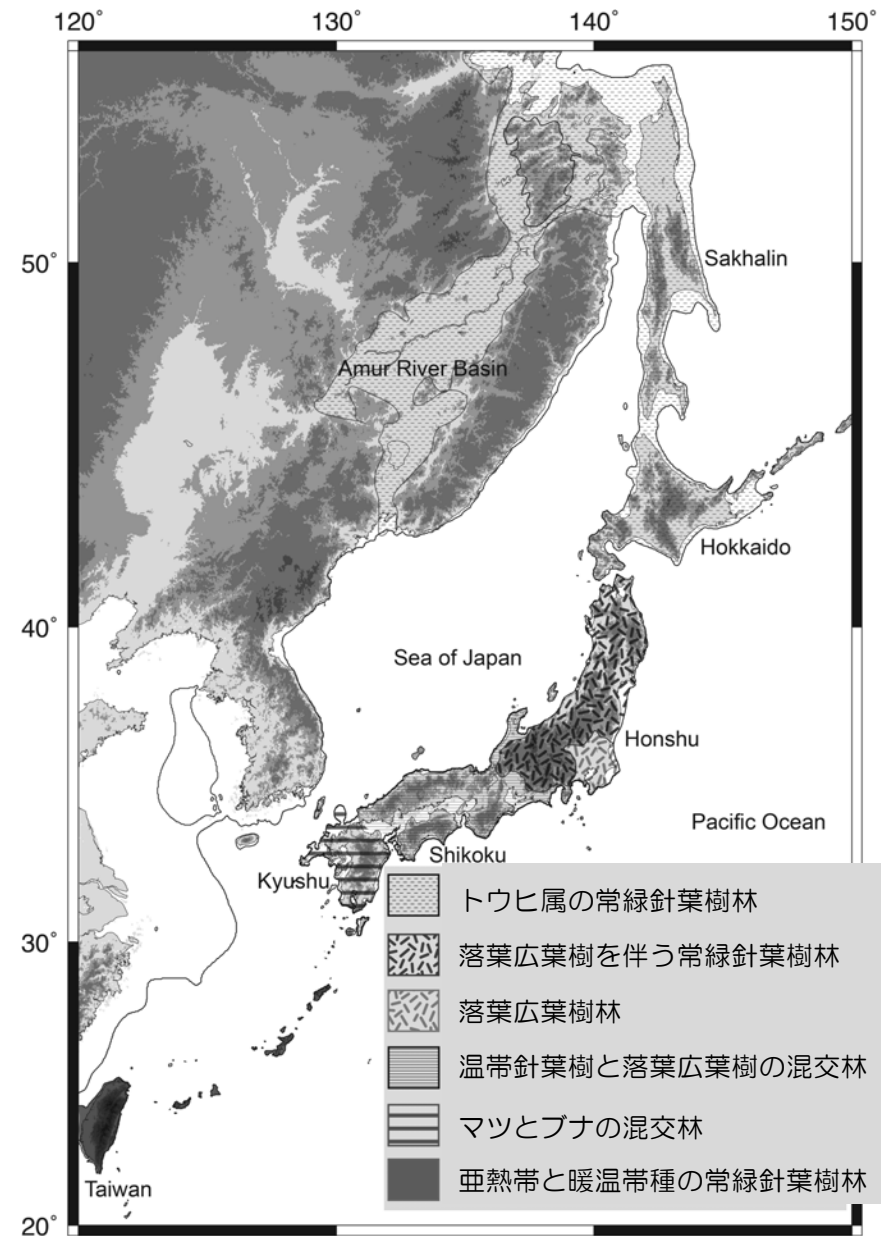
地底の森ミュージアム（仙台市）



4～3万年前の日本列島

- 比較的温暖・湿潤な気候下で森林が卓越した景観だが、全球の気候変動によって引き起こされたモンスーンや海流変化に伴い、陸域の気候は不安定だったと推定される。
- 亜寒帯から亜熱帯にかけて、多数のマイクロ・バイオームが存在するユニークな生態系の連鎖。
 - (1) 古サハリン北海道千島半島：亜寒帯の常緑針葉樹林。
 - (2) 古本州島：冷温帯～温帯の常緑針葉樹林と落葉広葉樹林。
 - (3) P-Ryukyu（古琉球諸島）：亜熱帯～暖温帯の常緑針葉樹林。

Hayashi and Takahara (2015)を一部改変



日本列島の現生人類代文化の出現

- 3.8万年前に現生人類が出現する（Izuho and Kaifu, 2015）。
- 渡来ルートは琉球列島経由，朝鮮半島経由，及びサハリン北海道経由。琉球列島と朝鮮半島経由が早く、北海道はやや遅れる（Morisaki et al., 2019; Nakazawa and Bae, 2018）。
- 森林景観での台形様石器と基部加工尖頭形石器を用いた狩猟（Sano 2016; Morisaki et al., 2019）。



Sano (2016)

提供: Newton Press (出穂・佐野監修)